



会長に選任され、司会を任せられた和泉昭夫氏の声が響いた。進み出た理事長の顔に注目が集まる。「今年

1月12日、寒い朝たつ
たが、深坂の森に38名が
集合した。皆やる気満々に
見える。整列したところ
で、「理事長あいさつ、福
富征男殿」と新しく交流部

年頭のあいさつは—「維持管理」—

発行者：NPO法人
下関深坂さくら友の会
下関市安岡町1-8-3
TEL:083-258-0143
FAX:083-258-5910
<http://yasuokac.sakura.ne.jp/sakura>
Eメール：misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp



は、桜の木と各人の健康の
『維持管理』で行きましよ
う。」という簡単な挨拶だつ
た。福富氏は年末働きすぎ
たのと、飲みすぎたので体
調を悪くし、医者にかかつ
たところ、「年相応に、酒も
ボランティアもほどほどに
しときなさい。」と言われた
らしい。流石に挨拶では「ボ
ランティアもほどほどに」
とは、冗談でも言えなかつ
たようだ。みなさん、理事
長の言葉を有難くうけたま
わって、身体を労わりつつ、
桜の維持管理に励みましよ
う。(記念写真。既に作業中
で写らなかつた人もいる)



最後は温かい豚汁と、ざんざい。塩こぶ、たくあん、そして白い握り飯。いつものことながら、同じ飯を食うということが心を開かせ、絆を強めている。

植えておきさえすれば、後は放つておいても育つと思つてゐる人も多いと思うが、肥料をやるとやらないでは大違い。肥料をやらないと、何年経つても太くならない。日当たり、深く耕せないなど、他の条件もあるが、育ちの悪い木ほど何とかしてやりたいと思う。

みなが記念写真を撮つて
いる間も、藤原さんは商事
道具のユニック車を操作し
ながら、天狗巣の罹患枝を
除去していました。



室内にて受講

初めての参加者のお目見え

季節外れの寒さと雨の中、まずは森の家で、下関北消防署員から、救急救命処置の手ほどきを受けた。人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用法など。その後、ゴミ集め、草取り、ば

若者の参加

毎年、11月の定例作業に



会員交流部会長 和泉昭圭

副理事長
吳國樞

前副理事長
上島政利

上畠政利副理事長が健康上の理由で、兼務の会員部会長とともに辞任願を提出し、理事長預かりとなつて、いたが、事務にも支障をきたす事態となつてきため、議題として取扱われた。辞任はやむなしとして承認された。前任には副理事長常岡梅男氏、会員交流部会長和泉昭夫氏を選任した。任期は、前任者の残りの期間とする。上畠氏はユーモアを交えた名司会者だつた。

一 副理事長、会員交流 部会部会長の辞任と選任

感想文を特集しました。4頁に東亞大学生の一ベキューなど。

桜四方山 最近里山資本主義と言う言葉をよく聞く。TVでもよく取り上げられているようだ。日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員が、NHK 広島取材班とともに『里山資本主義』と言う本を出してよく売っているらしい。都市への人口集中から、少子化まで、現代の病は、資本主義の産物。その価値観を逆転させる発想の里山資本主義は、さくら友の会のみんなも大いに共感できるだろう。藻谷氏の講演会が12月に川棚温泉で開催された。筆者と、松岡康成夫妻とで聴きに行つた。地域の活性化に対するアドバイスが多く語られた。地方には、財産がいっぱいあるのだが、地方の人は、それが財産だとは気付かない。そこに住む人々については当たり前のようだ。若者にとって食えさえすれば、何も都市に出ていく必要はない。若者が地方で暮らせるように、働ける場所と子育ての援助しなければならない。Uターンが始まり、少子化も解消する。いつも思っていることだが、